



第65回海洋教育フォーラム に協賛しました

(公社)日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会が主催するこのフォーラムは、海洋国家日本として多くの若者が船や海に興味を持ち関連産業で活躍してくれることを期待して全国で開催されており、12月25日(土)の三笠講堂には約80名の方が参加されました。

第1部は「研究者に聞く」と題して次の講演が行われました。

- ・鯨たちのために海の中をもっと静かに！—海中騒音を減らす世界と日本の取組—(土屋利雄 東京海洋大学)
- ・燃料電池船が作る水中雑音(高橋竜三 水産研究・教育機構水産技術研究所)
- ・船舶の水中雑音(毛利隆之 防衛省艦艇装備研究所)

海中の船などが発する人工的な音や、魚などによる音について現場の録音を聞きながら紹介があり、その発生源とその伝搬経路やそれぞれの音が生物等へ与える影響などについて優しく説明がありました。

第2部は「飛び出せ!! 未来の研究者」として高校生による講演が行われました。

神奈川大学附属高等学校歴史部の生徒により「帰ってきた三笠 119年間の軌跡」と題して発表がありました。この研究は、同校の歴史部に所属し軍艦に興味のある生徒が記念艦「三笠」に関心を持ち、戦後荒廃した事実を知ったことから、荒廃から復興までを歴史部のテーマとして取り上げ研究したものです。戦後の興廃した三笠の復元は日本経済と大きく関係していることをとらえ、さらに現存する戦艦を今後どのように伝えてゆくかを研究し纏めたものです。参加者にも大変好評で発表後の討議においては多くに質問もありました。

三笠にとりましても、記念艦を通して高校生が歴史に関心をもって研究した例は初めてで、今後もこのような取り組みの積極的な協力をしたいと思います。

